気仙沼市立小泉小学校

体験・再発見！見つめよう ふるさと小泉の海

１．はじめに

【田束山から見た小泉海岸】

本校は，東部は三陸海岸特有のリアス式海岸であり，西部には北上山系の霊峰「田束山（たつがねさん）」が学区を見下ろす形でそびえている。また，学区の北部を貫流する小泉川（津谷川）が，流域の耕地を潤し，景勝の地，赤崎海岸に流入するなど，海，山，川に囲まれている。そのような豊かな自然に囲まれた環境において，様々な学習活動を通して小泉の海の恵みや魅力を感じることができる実践を行ってきた。東日本大震災以降，海辺に近付く機会は減少したが，今年度から「気仙沼市海洋教育推進事業実践校」の指定を受け，「海と生きる」ことと教育活動の結びつきや体系化について，改めて考える機会を得た。

今年度は，「海洋教育」の視点から，地域の環境を生かした特色ある実践を行う。また，海洋教育の４観点（「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」）に基づいた小泉小学校 海洋教育全体計画」等の基盤づくりを行い，児童が海の良さを再発見できるようにする。

２．ねらい

地域の海に関心をもち,主体的にかかわる活動を通して,海との共生のありかたを考える。

「海に親しむ」	「海を知る」	「海を利用する」	「海を守る」
「身近な植物や生き物を観察しよう」（低学年）	「サケの養殖」（２年生）		
	「地域の安全を考えよう」（４年生）		
	「学校のまわり」（3年生）		「EM の利用」（５年生）
「外尾川の水質･水生生物調査」（4年生）		「小泉の恵みを調べよう」（５年生）	
	「地震･津波のメカニズム，津波碑の調査」（5年生）		
		「未来の小泉について考えよう」（６年生）	

「海に親しむつどい」「田束山 全校遠足」（全校活動）

３．学習活動の概要

（１）「海に親しむ集い」（平成２８年９月５日 実施。全校活動）

本校では，震災前まで学校の近くにあった小泉海水浴場で「砂の造形大会」を行い，全校で海に親しむ活動を進めてきた。しかし，津波で海水浴場が跡形もなく流されたため，しばらくの間活動を見合わせていた。

震災から５年が経過した今年になって二十一浜漁港の港湾工事が終わり，水遊びができる砂浜が利用可能となったため，気仙沼市本吉総合支所等からも許可を得て，今回の活動を行った。

浜に着くと，はじめに緊急時の避難経路と場所等を確認したあと，砂浜のゴミ拾いをしながら，活動場所の安全確認を行った。その後，縦割り班に分かれて砂の造形に取り組んだ。

【まずは安全に活動するためのゴミ拾い】

砂を掘る係や海水をくむ係など，事前に縦割り班ごとに計画していた分担ごとに活動を進めた。途中，海水をくみに行ったり，飾るための貝や昆布を取りに行ったりしたはずの子が，海で遊んでいるなど，様々なハプニングにも見舞われたが，終始楽しそうに活動する様子が見られた。

６つに分かれた班は，それぞれ「マグロ」「カメ」「クラゲ」「船」「サメ」「クジラ」を模した砂の造形を行い，それぞれに賞をもらった。児童からは「海での活動が楽しかった」「またやりたい」というものから，「ゴミがたくさん落ちていることに驚いた」「卒業するまでに海に親しむ集いに参加できて良かった」などの感想が聞かれた。

【じょうろやバケツで海水をくむ係や，昆布や貝を拾って装飾する係など，分担しながら作業を進めました！】

小泉小学校の伝統行事である「海に親しむ集い」を再開できたことは，この地に住む児童にとって海を間近に感じることができる良い機会となっただけではなく，本校の海洋教育を推進する上でとても意義あることとなった。今後も，良き伝統を継承できるようにしていく。

（２）「小泉の恵みを調べよう」（平成２７年１１月～平成２８年２月 実施。５年生）

①ワカメの種はさみ体験

ワカメの生産は小泉地区の主要産業の一つである。作業はわかめの種(幼葉約３㎝位)を長いロープに一本一本手作業ではさみ，それを漁船に積んで，沖のいかだに張って来年の春の刈り取りを待つ。漁師の方からはさみ方や，よいワカメをつくるための工夫や努力について教わった。

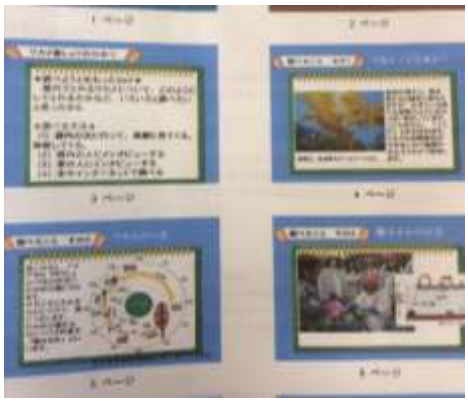
②ワカメボイル作業体験

２月に，「種はさみ体験」でもお世話いただいた蔵内浜の「蔵内之芽組」の皆様にご協力をいただき「ワカメボイル作業体験」を体験した。太平洋で大きく育ったワカメの「メカブ切り作業」や「ボイル作業」，「しん抜き作業」などを行った。ほとんどの児童は初めての体験であり，海の恵みを大切にしながら地域産業の発展に取り組む方々の「海と生きる」姿を見つめながら，地域のよさについて考える学習となった。

③総合的な学習の時間（いずみタイム）発表会

総合的な学習の時間の学習成果や内容のわかるものを相互に発表したり，見合ったりすることで，次年度以降の学習の見通しをもたせるために，発表会を実施した。３年生以上が各学年８分程度を目安に，スライド等を交えながら紹介し合った。

以下は５年生が発表したスライドの一部である。



４．成果と課題（成果：○，課題：▲）

○震災から５年が経過し，地域の海岸の湾港工事や防潮堤の整備などが進んできていることから，海での活動が行いやすくなってきた。実際，「夏休みに出かけたところ」という質問に対して，「海」と答える児童が一番多く，家庭においても海に対する意識の変化が感じられる。
学区を縦横に走る道路や河川の整備のため，安全については十二分に留意する必要はあるが，小泉のこれからを知る上で，今後も海を中心にした活動を行う意義を感じる。

○生活科や総合的な学習の時間や学校行事において，海や地域の産業について体験的に学習することは，児童にとって地域の環境やそこで暮らす人について考える機会となっている。児童にとっては，身近にありながらも「初めて経験した」「今まで知らなかった」ということが多く，驚きや感動が次時への学習課題につなげることができていた。

《地域学習に対する児童意識調査》

【設問：小泉のことを学習することは，大切だと思いますか。】

	２年	３年	４年	５年	６年	合計
とても大切だと思う	6	8	9	4	１０	３７
大切だと思う	1	1	4	7	4	１７
どちらかというと大切だと思わない	0	0	0	0	0	0
思わない	0	0	0	0	0	0
	7	9	１３	１１	１４	５４

【理由（一部抜粋）】

・自分の生まれた場所だから，住んでいる小泉のことが知りたい。
・町の人と仲良くなれる。　・環境のことを学習するので，これからの小泉に生かせる。
・避難するときに役立つ。　・小泉のことを学習すると，他地域と比べるときに役立つ。
・みんなが昔の小泉のことを忘れないように。

※平成２８年２月実施。２年生以上対象。

▲「海洋教育」という観点で活動計画を見直すと，学年によって活動に偏りが見られた。児童は，これまで以上に人的・物的資源と触れながら，より良い暮らしを考えていくことが求められる。その過程において，海を題材にした活動を低学年から系統的に行いながら，海に親しむ態度の育成を図っていく。

▲本校は，豊かな自然環境に恵まれた学区ではあるが，児童の生活経験が限られていることや，学級の児童数が少ないことから，多様な意見や考えがなかなか出ないときがある。また，次期学習指導要領で求められる視点から，より主体的・探究的な取組を目指していく。

【校地内にある「津波碑」と，そこから望む復興の様子】